

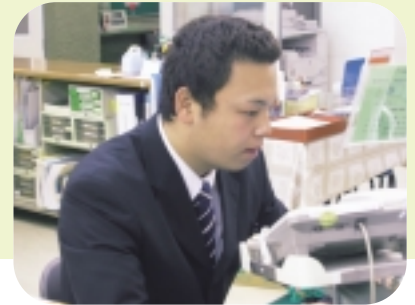


希望がかなって
公民館の勤務になれたんで、
すごく面白い毎日です。

新潟市教育委員会
生涯学習部中央公民館事業係

小笠原将臣さん
OGASAWARA Masaomi

2004(平成16)年
教育人間科学部卒業



学びたいという一人一人の想いに応えて いきたい

現在は新潟市中央公民館に勤務しています。主な仕事は、講座を企画し、その講座の講師依頼や事前準備、連絡調整、当日の運営などです。

私は、もともと公民館の志望だったんです。大学時代に、新潟市役所青少年課でインターンシップを経験したり、西地区公民館でまなび屋()という活動をしたりしていきまして、公民館や青少年教育の分野に携わりたいと思い、市役所を目指しました。

実際に、希望がかなって公民館の勤務になれたんで、すごく面白い毎日です。利用者にもいろいろな活動をしている方がいらっしゃいますし、私が参加している地域学の「寺町からの会」では、集まるみなさん、個性の強い人ばかりで、とても刺激になりますね。

今はまだ仕事をあまり任されていませんが、これからゆりかご学級や少年クラブ、ユースセミナー等も担当する予定です。ユースセミナーとは、青年対象で、去年は癒しをテーマにアロマセラピーなどをやったんですが、今回は若者から企画員を募り、講座を運営していこうという事業です。公民館は、若い人の利用者が少ないので、ぜひこの機会をもって利用してもらおうと考えています。

実は、私も大学生になるまでほとんど公民館を利用したことがなかったです。ですが、西地区公民館での「まなび屋」という活動を通して、公民館に愛着や興味を持つようになりました。

「まなび屋」の活動を含め、学生時代の活動によって、価値観が広がりましたね。たとえば、い

ろいろな考えを持った人と話し合いをしていく中で、押し付けてもお互い納得できないということもわかりましたし、その中でどうやって集約していくか、決めていくかと考えるようになりましたね。あとは、自分だけが考えているわけじゃなくて、それぞれがいろいろな風に考えていて、いい点もあって悪い点もあって、それを活かしながらより良いものを創っていくという過程も大切なんだと学びましたね。

ただ、私は大学の勉強はあんまりしてなかったです。卒業論文は、大好きなサッカーを取り上げ、サッカーが地域に与える影響というテーマで書きましたし…。

今の仕事に就いて、まだ2カ月ですが、利用者に印刷機の使い方を教えて、ありがとうと言われたとか、そういう小さなことが仕事の喜びになっています。今後は、いろいろな人と関わり、ニーズのある人たちをつないでいけるような仕事をしたいです。せっかく、こういうことをやりたいと思っている一人一人の想いに応えていけたらいいなと思います。

最後に在校生へのメッセージですが、あんまり勉強しすぎてもだめで、遊びすぎてもだめなんです。多くの人と関わることが大切だと思います。関わる中で自分の考えをしっかりと築いていってください。公民館職員としては、学生のみなさんにぜひ公民館を利用してほしいですね。



まなび屋での活動の1コマ。下段中央が小笠原さん。

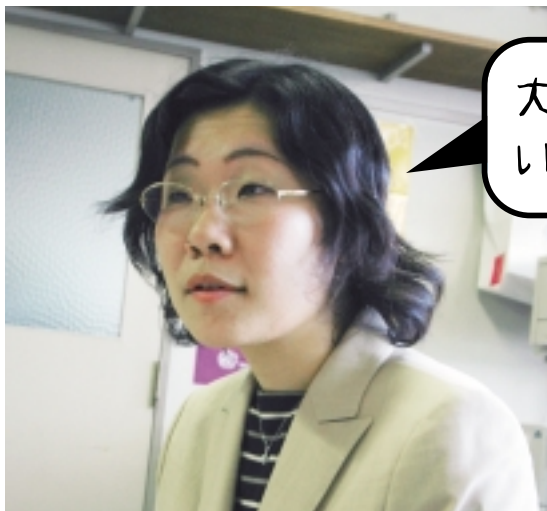
いい点も悪い点も活かしあいながら、
より良いものを創っていくという
過程の大切さを学生時代に学びました。

INTERVIEW

OB・OGに聴く



「まなび屋」とは、西地区公民館と新潟大学教育人間科学部学習社会ネットワーク課程の合同事業であり、放課後の子どもの居場所づくりを学生中心で運営しています。学校では習わないことを体験し、異世代間の交流をするフリースペースです。



大学生の時って時間がいっぱいあるので、
いろんな方と会う機会を持ってほしいですね。

独立行政法人
医薬品医療機器総合機構
医療機器審査部

藤山 友紀さん

FUJIYAMA Yuki

2000（平成12）年
歯学部卒業



医療用具の審査を行っています

平成12年に歯学部予防歯科学講座に入局し、平成15年から現在の職場に在籍しています。メーカーからの医療用具承認申請に対して、世に出しているものかどうかという審査を行なっています。仕事は薬事法という法律のもとで動いています。歯学部では薬事法なんてそんなに深く勉強しませんでしたから今でも苦労しています。法律は難しいですね。

医療全体の中での歯科の位置づけが見えてきたことが自分にはすごくプラスになっています。歯科といっても結局は医療の中の一部ですからね。それは歯科ではなくて、違う分野に飛び出したから見えてきたのだと思います。まだ漠然とした感じではあるんですけど、歯科以外の方々に歯科のことを分かっただけにはどうしたらいいかという方法も見えてきたように思います。

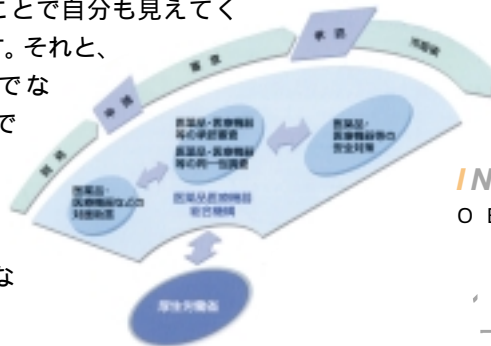
新潟大学歯学部を選んだきっかけは、小さい頃から親に女の子だから資格を取って手に職をつけて、一人でも生きていかれるようにと育てられたことですね。兄が薬学部に進んだことも影響して、医歯学系がいいかなと高校の時に思いました。それと、父が歯槽膿漏だったことも影響しているのかな。その後、歯科保健をやりたくて予防歯科学講座に入局しました。多くの方が歯周病の予防などで歯科保健の恩恵を得ることができればいいなあと思っていました。歯科保健をするには多くの人と関わっていくことが必要だと思っていました。そこで、歯科以外の分野も携わることができ

る仕事を今はしています。

歯学部において歯科関係の行政に関わる仕事をやりたいという人は少ないです。はじめ私もそうだったんですけど、歯学部に入る人は歯の治療をやりたい人が多いと思います。だから私は変わり者って自分では言っているんです。でもいろんなタイプの人がいっていると思うんですよ。同じタイプの人ばかりいても発展がないのではないのかな。変わっていくこともできないと思うので、変わり種が一人や二人いてもいいかなと思っています。学生時代は弓道部に入っていて、全国大会に向けての練習や遠征にみんなで行ったのが印象に残っています。あとは歯学部の6年生の時、総合診療室で実際の患者さんを治療させていただいたことが思い出ですね。

大学生の時って時間がいっぱいあるので、いろんな方と会う機会を持ってほしいですね。自分の学部以外の人と会ったり、他の先生とお話する機会を持っていろいろな方の意見を聞くと自分がどうしたいのかがきっと見えてくると思います。自分の持っている世界の他にも世界があるから、それを知ることでも自分も見えてくると思います。それと、堅苦しいのでなくていいので一つでも目標を持って生活してもらいたいなと思います。

いろいろなタイプの人がいっていると思うんですよ。同じタイプの人ばかりいても発展がないし、変わっていくこともできないと思うので。



INTERVIEW
O B ・ O G に 聴 く

仕事



事務作業や資料づくり、
企画を作るにしても、とにかく何でも、
できないと言わずやっていました。

NPO法人まちづくり学校
事務局長

大野 国寿さん

OHNO Kunihisa

2001(平成13)年
大学院自然科学研究科卒業



気軽な気持ちで参加して、もう3年

NPO法人まちづくり学校()の事務局として、それを収入の糧として生きています。事務局ですので、いろんな事業に関わったり、連絡調整等の仕事をしています。今は、新潟市のまちづくり講座や新潟駅の建て替えに伴う市民参加のプロジェクト、小張木関屋線という都市計画道路の見直しの検討会に向けた事業に携わっています。

僕がまちづくり学校に就いたきっかけは、学生時代、新潟大学工学部で、都市計画や景観を扱っている研究室にいたんです。大学院1年生のときに、就職活動をし、参加型の事業を中心にやっている計画系コンサルタントを志望していました。ですが、なかなかうまくいかなかったんですね。そうこうしているときに、NPO法人まちづくり学校というのができて、どんなことをしているのかもよくわからず、気軽な気持ちで参加したというのがまちづくり学校との出会いですね。卒業後、半年ぐらい立った頃、事務局をやらないかと言われまして...それからもう3年たちましたね。

まちづくり学校の事務局になった最初の1~2年は何にでも関わろうという気持ちでやって、本当に何でもやりました。事務作業や資料づくり、企画を作るにしても、とにかく何でも、できないと言わずやっていました。そんな中で、大事なところは一緒なのかなと気づき、様々な事業がつながり全体像が見えてきましたね。

大学時代に学んできた都市計画や景観は、今すごく生きていますよ。結局考え方とか、景観ってすごく感性的なところがあって、人がどうやったら居心地がよく感じるとか、風景や自然の意味、

その地域にとっての位置づけとかを踏まえながらプランニングすることを学生時代に学んだので、今、まちづくりに携わっていても素直に入っていけるんですよ。

学生時代の思い出は、建築学科の製図室で朝まで課題をしていたことでしょうか。仲間とバカ話をしながら図面を書いたり、模型を造ったり、小説や映画の話、写真の話をしながら朝を迎えることが多かったです。建築学科にいた学生としてはそれが一番の思い出です。自由な雰囲気でも、楽しみながら研究していましたね。製図室ですっと一緒だった人とはつながりがあって、今でも飲みに行ったり、仕事での関わりも生まれてますね。

先日、まちづくり学校事務局に新潟大学工学部建築学科の学生から、NPOへの就職を視野に入れているという内容のメールがきたんですが、学生時代は、とにかくいろんな人に関わって、いろんなものに触れられたらすごく楽しいんじゃないかと思います。おもしろい事業や話があったときは、こういうのがあるよとか、これ来てみないという感じで学生もつなげられたらいいなと思っています。

僕もちょっと動いてみて、何かよくわからないけど、面白かったり、いろいろな人と出会ったりする中で、今の仕事につながっていったので、新大のあたりから一歩外に出ると広がっていくかもしれないですね。



まちづくり学校は、新潟県内外でやわらかな参加型のまちづくりに携わり、人材の育成に努めている有志らによって設立されたNPO法人です。新しい時代に役立つ公益のコーディネートを事業の方向性として、人材育成を中心に事業を展開しています。

いろいろな人に関わって、
いろいろなものに触れられたら
すごく楽しいんじゃないかな。

INTERVIEW

OB・OGに聞く





もともと人に来て話を聞いて、
自分に取り込むことが好きだったんです。

株式会社テクスファーム
事業開発グループ

村越 啓子さん

MURAKOSHI Keiko

2004（平成16）年
法学部卒業



フリーペーパーの編集で多忙な毎日です

株式会社テクスファーム事業開発グループに勤務しています。そこで『soda.』というフリーペーパーをつくっています。広告企画、営業、取材、編集、制作、配布まで全部やっています。クライアントからお金をいただいて、読者に無料で提供するのがフリーペーパーです。新潟市内で若い人たちが集まりそうなところに専用のラックを置いてありますし、県内のセーブオン全106店舗にも置いてあります。

初めての仕事の時エステのお店に一所懸命売り込みをやったんですけど、写真の写りがよくなくて、校正を持って行ったら「こんなじゃ載せられない。」ってすごく怒られました。初めてのなのでどうしていいかわからなくて、会社でも怒られました。結局、撮り直して何とかOKができました。もうこのお店には一生行けないだろうと思ったんですけど、お店の女性オーナーとマネージャーが、働く女性に優しくかったです。「こういう経験は絶対無駄にならないから、今はがむしゃらにやんなさい。」入社1カ月足らずの失敗した人間に、いろんなことを教えてくださる。そういう人生の先輩に会えたというのは嬉しかったですね。いろんなところに先生がいる感じで、すごく面白いです。

『やぶへびひろば』というまちづくり情報誌の編集委員になったこと。それと同じ頃『新大広報』の編集委員になったことが、この業界に入るきっかけになりました。もともと人に来て話を聞いて、

自分に取り込むことが好きだったんですね。それで、新聞記者になりたいと思って3年生の終わり頃から意識して勉強を始めたんですけど、あっけなく落ちてしまって。その後もいろいろと活動していたんですけど、なかなかうまくいかず投げ出しそうになった時に、この『soda.』の正社員募集という記事を見て受けたんです。入社試験の時、『やぶへびひろば』と『新大広報』を見せて、こういうものをつくってましたと売り込みました。後で社長から「学外のことには打ち込んでいたことがプラスに働きました。」と言われました。役立ちますよ。『新大広報』編集委員は。

よく大学生活はいろんなことをしなさいとか夢を見つけなさいとか言いますが、過ぎてしまえば何でもいい思い出になるので、ただただ流されていく時間というのは、絶対にその時にしかありません。そんな中で、自分はこういう人になりたいという種みたいなものをどれだけ自分の中に蒔けるか。将来を考えた時に引き出しのひとつになると思うんですよ。無理に芽を見つけようとしなくてもいいから、とにかくいろんな人に来て自分の中に種をたくさん蒔いてほしいです。就職活動は大変なんですけど、私みたいに特別勉強しなくても何とか社会人になれるんで、やっきになって就職活動しなくていいですよ。大事な時間ですよ。4年間は…。



「後で社長から学外のことには打ち込んでいたことがプラスに働きました。」と言われました。

INTERVIEW
OB・OGに聴く

仕事

Niigata『街の上級者』創造マガジン5月号。人、食、ファッションなどクールな新潟情報を毎月紹介。